

第1回 みどり市立学校適正規模・適正配置大間々地区検討委員会 議事録

○日 時 令和7年8月21日（木） 午後7時00分～午後9時00分

○場 所 大間々庁舎 3階 大会議室

○出席者

【みどり市立学校適正規模・適正配置大間々地区検討委員会委員】12名

委員長	田口 和人
副委員長	備海 忍
委員	新井 博介
委員	大江 潤一
委員	鈴木 義雄
委員	河内 良範
委員	今井 俊彦
委員	今泉 喜美
委員	松島 千里
委員	植木 文貴
委員	寶木 政則
委員	林 剛史

【欠席者】1名 委員 富所 哲平

【みどり市教育委員会】 8名

みどり市教育委員会	教育長	保志 守
みどり市教育部	部長	金高 吉宏
教育総務課	課長	今泉 源太郎
学校教育課	課長	神山 亮一
教育総務課	課長補佐	園原 裕一
学校教育課	課長補佐兼指導係長	知久 鉄平
教育総務課施設係	係長	大窪 進
学校教育課教職員係	管理主事	西村 晋一

【報道機関】 桐生タイムス社

【傍聴者】 なし

○議事の概要

1 開 会〔開始：午後7時00分〕

- ・委員が1名追加（林剛史氏）になったことを報告

2 委嘱状の交付

- ・保志教育長から委員へ委嘱状を交付

3 教育長あいさつ

- ・みどり市教育委員会 教育長 保志 守
皆様、こんばんは。

本日は、大変お忙しい中、第1回となりますみどり市立学校適正規模・適正配置 大間々地区検討委員会にご出席をいただき誠にありがとうございます。

また、皆様には、日頃よりみどり市の教育行政に深いご理解とご協力をいただいておりますことについても、厚くお礼申し上げます。ただ今、田口委員さんに代表で委嘱状を交付させていただきました。これから委員の皆様には大変お世話になりますけれども、どうぞよろしく願いいたします。

さて、みどり市ではこれまでに、小規模校化が顕著となっていた大間々の小学校の統廃合や東町の小中学校を統合した義務教育学校への移行、大規模校となっていた笠懸小学校を分離し、笠懸西小学校の新設を行ってきました。しかし、今後も児童生徒数は減少していく見込みとなっており、少子化に対応した学校教育の在り方について、将来を見据えた取組が必要になってきています。

そこで、令和5年度より「みどり市立学校適正規模・適正配置検討委員会」を立ち上げ、みどり市として望ましい学校規模や学校配置について、2年間をかけて検討していただき、令和6年8月に検討委員会から答申をいただきました。

教育委員会では、いただいた答申を基に、今後の学校規模の適正化や将来を見据えた学校配置の在り方、少子化に対応した魅力ある学校づくり等について、その基本的な考え方をまとめた基本方針を今年の1月に策定いたしました。

市内の学校規模や学校配置については、早急に具体的な検討を始める必要があります。さらに、笠懸町、大間々町、東町それぞれの地域における学校規模及び学校配置の現状と課題は大きく異なりますので、地域ごとの実情に応じた具体的な検討が必要です。そして、協議については、保護者や学校関係者、地域住民の皆様のご意見を尊重しながら進めていくことが大切であることから、今年度より本委員会を設置することといたしました。

そして、本基本方針と地区別検討委員会で得た方向性を踏まえながら、学校の統廃合や移転新築等について、地域住民や保護者、児童生徒、関係者の皆様の理解や協力を得ながら、総意として判断できるよう準備を進めてまいりたいと考えています。

委員の皆様におかれましては、本基本方針を参考にいただきながら、それぞれのお立場から、大間々町に適した方向性を幅広くかつ具体的に検討していただき、専門的な知識や経験を生かしながらご意見を賜りますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

4 自己紹介

- ・委員及び事務局自己紹介

5 委員長及び副委員長の選出

- ・委員の互選により、委員長に田口和人委員、副委員長に備海忍委員を選出。

6 諮 問

- ・保志教育長から委員会（委員長）へ諮問【配布資料 3】

7 確認及び説明事項

- ・確認及び説明事項に移る前に、みどり市立学校適正規模・適正配置地区別検討委員会規則【配布資料 2】の一部について事務局より確認。

- ① 議事進行は、みどり市立学校適正規模・適正配置地区別検討委員会規則第 6 条第 1 項の規定により、委員長が議長を務める。
- ② みどり市立学校適正規模・適正配置検討委員会規則第 6 条第 2 項の規定により、本日の委員会は過半数以上の委員の出席により成立する。

（1）みどり市立学校適正規模・適正配置地区別検討委員会規則について

- ・【配布資料 2】に基づき、事務局から説明。
- ・意見や質疑応答は、以下のとおり。

発言者	発 言 内 容
委員 1	9 条「議事録の作成及び公表」の 2 の（3）議題及び議事の概要とありますが、「概要」とはどこまで言うのか。ある程度具体的な論点であるとか発言とかを記録しなければ議事録にはならないと思う。「概要」というと非常に抽象的。どう捉えたらいいのか。
議長（委員長）	「概要」なので、ある程度ポイント、柱となる部分は押さえないと成りませんが、発言の一言一句を細かく記載するというものではありません。
委員 1	要するに主要な論点、あるいは主要な発言については具体性をもって記載するということですか。
議長（委員長）	そうですね。一言一句というわけにはいきませんが主要な部分を押さえていくということになります。
委員 1	話は逸れますが、桐生で事件があって議事録を書いていないとありました。役所が議事録を書いていないとはおかしいなと。ただ、アバウトで書いてもしょうがない。どんな発言があって、何を判断基準で決められたのか、こういったことははっきりしておかなければいけないと思います。
議長（委員長）	他はいかがでしょうか。
委員 1	7 条に「会議を公開する」と書いてあります。「公開」とは市民一般に公開するというイメージかと思いますが、会議の日時や場所について、市民に対する事前のお知らせはあったのですか。
事務局 1	市のホームページにて会議の日時・場所を公開しています。

議長（委員長）	ホームページは今日的に広く使われていると思います。例えばどのような周知をお考えでしょうか。
委員 1	市民でも関心を持っている人がいるでしょうから。この冬に住民説明会があったときにもPTAの若いソパもたくさん聞いていました。そういった人たちに会議の開催について知らせなければ、知らないところで決まっていたということになってしまいます。
議長（委員長）	周知方法としては市としてホームページで行っていますが、具体的に何かお考えですか。
委員 1	ホームページもあると思いますが、読まない人もいるでしょうから、市の広報に開催のスケジュールを掲載すれば一つ公開になるのではないかと。みどり市のホームページは非常に複雑でたどり着けません。更新もあまりしていないので、ホームページだけに頼るのは公開にはならないと思います。
議長（委員長）	周知方法を広げるというわけですね。
委員 1	一般市民がアクセスしやすいようなホームページになっていなければ、公開の手段にはならないと思います。

（２）みどり市立学校の適正規模・適正配置基本方針について

- ・【配布資料４】に基づき、事務局から説明。
- ・意見や質疑応答は、以下のとおり。

発言者	発 言 内 容
委員 1	基本方針の住民説明会が冬にあって、その前にパブリックコメントがありました。パブリックコメントでどんな意見が出たのか、住民説明会でどんな意見が出たのか、それがここにどう反映されたのかお伺いしたい。どんな意見が出てどう対応したのか。本来なら最初にこれをやるべき。今までの経過があって今日があるのですから。 一番の問題と思っているのは、旧３町村が合併してみどり市になったのに、配置計画は旧３町村ベースになっていること。東教育委員会、大間々教育委員会、笠懸教育委員会の作品のように見えてしまう。笠懸をこうする、大間々をこうする、東をこうする、そうではないと思う。何のために合併したのか。この議論は笠懸西小ができる前からある議論。マンモス校と言われた笠懸小、これと大間々南小、距離にして４kmない。４kmは先ほどの説明にあったように徒歩通学圏内。その真ん中で線を引けば２kmしかない。大間々南小は空き教室がたくさんある。笠懸の北半分のある地区から大間々南小へ通学させれば、笠懸西小を建設しなくて済むだろうという話があった。そのときから笠懸教育委員会と大間々教育委員会という話になっていた。なんでみどり市として考えないのか。それがエスカレートして今度は旧３町村になってきた。一方で、子どもの教育のためと言いながら子どもの教育の環境がバラバラ。合併したからにはみどり市として適正配置、適正規模を考えられるのではないかとと思う。
議長（委員長）	パブリックコメント、住民説明会についての報告がほしいということですね。
事務局 2	パブリックコメントの内容、住民説明会の様子をお話いたします。初めに結論を申し上げますけれども、パブリックコメントと住民説明会でいただいた

	ご意見は、基本方針の内容に沿ったものと判断いたしまして、大きく変更はしておりません。内容について説明いたします。1つ目は、子育て世代は将来に不安があるので、人間力を育てるような教育をしてほしい。例えば、農業やDIY、縫い物など、昔の家庭では当たり前のように学んできたことを義務教育に取り入れることが大事。2つ目は、クラス替えができないと、いじめ等により人間関係が悪化した場合、退避できない。学校の合併には大賛成である。3つ目は、1学級の適正な人数は何人なのか。出生数や新入学児童数、他の学校の人数動向を併せて検討する必要がある。4つ目は、来年度の大間々南小の新入生が現時点で10人となっており、すでに素案を下回っているため、早急に合併を進めるべき。合併に時間を要するのであれば、中1ギャップの解消も念頭に指定校特例区の設定を進め、柔軟に学校を選択できるように配慮してほしい。5つ目は、笠懸小と笠西小が近く、久宮の方に住む側としては学校が遠いので、笠懸南小を作るか、笠小を南へ移動してほしい。中学校の校区についても検討してほしい。さらに、給食の提供方式について、自校方式とセンター方式があるが、このことについて早急に結論を出してほしい。このようなご意見が出ております。
委員 1	私A4を2枚出しています。私の意見は1つも入っていません。笠懸小学校が老朽化しているとあり、笠懸小学校建設ありきのシナリオになっている。老朽化についてはメンテナンスをしなければという話。年数的にはまだ十分ある。笠懸地区だけで議論すれば笠小を立て替えましょうという話になる。みどり市全体としてやらなければ笠懸は笠懸だけで決めてしまう。笠小建設は既定路線。結論ありきの計画書になっている。
議長（委員長）	そこについては、令和5、6年でみどり市全体での学校適正規模・適正配置検討委員会で2年に渡って私が委員長を務めました。そこでは、みどり市全体のところを検討しましたが、教育長からの話にあったように、このみどり市が、東、大間々、笠懸において、それぞれ固有で特殊な問題、事情を持っていると捉えました。したがって、それぞれ3つの地区で考えていくことが必要だと考え、地区別検討委員会を設置したわけです。ただし、大間々と笠懸、大間々と東について、全く関係なくそれぞれ独立して考えていくのではなく、双方のことを勘案しながら、しかし、3つの地区が抱えているそれぞれの問題を十分に検討していこうということになりました。これが昨年度までの検討委員会から今回の地区別検討委員会への流れになっています。その中で、委員1さんがおっしゃったようなことも議論していければよいと思います。
委員 1	検討に当たっての留意事項のところで、地域の地理的特性まではわかる。歴史的背景が少しわからない。本当に違いがあるのか。地理的特性の違いについては、東地区と大間々地区の間にはあるだろう。大間々地区と笠懸地区の間に地理的特性はあまりないと思う。
議長（委員長）	広く一般的に見てもそうですか。
委員 1	一般的に見てもそうです。歴史的な背景もそんなに変わらないです。平野部でつながっているわけですから。山間部でもないし川もないですから。地域的特性の差もなければ歴史的特性の差もない。ただ、一部の人で変な感情を持つ

	ている人はいますよね。平均的な意見ではない。要するにそういったところにいろいろな問題が出てきて、大間々と笠懸の間に分断意識ができています。例えば、大型設備はほとんど笠懸に作っている。大間々地区には一切大型投資はない。大間々なんかに投資しなくていいんだと公言している人たちもいる。市の職員、あるいは議員の中で。そんなやり方だったら合併した意味はない。教育は100年の大計であるというならば、教育委員会が率先して、みどり市としての学校適正化や学校の在り方を打ち出すべきだろう。みどり市ですから。東村、大間々町、笠懸町ではない。なぜ一体的に考えないのか。東は確かに地理的に離れているが、黒保根との共通点はあるとか、そんな考え方ができると思う。大間々と笠懸に地理的特性や歴史的背景の差はさしたるものはない。
議長（委員長）	委員1さんのおっしゃるところは、大間々と笠懸を同じ土俵で考えた方がよいのではないかというお話ですね。
委員1	大間々と笠懸だったら一体的に考えてもよいだろうと。それは、笠懸西小を建設する前の議論です。
議長（委員長）	今回は大間々地区検討委員会となっていますので、協議の中でまたご意見を伺えればと思います。

8 協議 今後の大間々町における学校適正規模・適正配置について

- ・【配布資料4】P39,41,42に基づき、事務局から説明。
- ・意見や質疑応答は、以下のとおり。

今後の大間々町における学校適正規模・適正配置について	
発言者	発言内容
議長（委員長）	今日は大間々地区の検討委員会ということで、事務局から大間々地区についての例が説明されました。基本方針39ページのところで地区別検討委員会における参考事項としまして、大間々町の課題としては、学校の小規模化が進んでいるとのこと。大間々南小、大間々北小、大間々中について、学校規模の適正化と併せて学校配置についても十分検討していく。昨年度までの検討委員会では義務教育学校への移行も含めた学校規模・学校配置のイメージを共有しながら検討してきたことから、参考資料を十分に活用しながら検討していくと書かれています。そして、この課題に対する42ページの内容はあくまでも例です。これが先にありきというものではないということをご承知いただきたいと思います。そのことを踏まえて、大間々地区について皆さんのご意見をお願いしたいと思います。まずはPTA会長さんに、学校の小規模化について保護者や子どもたちからどんな声が上がっているかをお話いただけるとありがたいです。
委員2	私自身も大南小出身で、基本方針にあるとおりで少ない児童が大中と大東中に分かれます。自分もそれを経験して大東中に進学しました。今娘が中学1年生で、通常の学校区で行けば大東中ですが、実際には大中に進学しました。理由は友人関係です。一番仲のよい友達と分かれることは精神的に無理だということで、部活動の兼ね合いもあって大中に通っています。少ない人数がさらに分かれてしまうことによる進学直後の負担感はあると思います。さらに今年の

	新入学児童は9人ということです。でも、だからといって「人数が少ないから大南小はやめておいた方がいいよね」ということはもちろん思っていないです。ただ、やはり5年後、10年後を見ていく上で、例に出ているものがありますので、よりよいものをこの場で話し合っていけたらと思います。今回初めて委員会に参加させていただいています。これまでの話の経緯は分かりましたので、これをさらに進めていく感覚で参加させていただければと思っています。
委員3	私は大北小、大中の卒業生です。私のときは小学校が3クラス、中学校が6クラス、だいたい300人から400人手前くらいの規模でした。私は「高津戸」という地区に住んでいます。はっきり言うと、大北小に行こうが大南小に行こうが距離は変わりません。息子は今大北小に通っています。その前は大間々南幼稚園に通っていました。高津戸地区については距離に差はないと思います。 大北小は、校庭は狭いと感じています。学年に関しては、1クラスの学年がいくつかあり、運動会のときに1つのクラスが分かれてしまいます。2クラスだったら「1組と2組で競いましょう」とできますが、1つのクラスが分かれてしまうので、クラスが戻ったときに勝ち負けについての言い合いがあったと保護者から聞きました。せっかくだったらクラス単位でみんなで仲良く協調し合って行事に臨める環境があるとよいと思います。あとは、基本的にはみんな児童は全学年通して仲がよいです。私も会長をしながら子どもの野球などいろいろと行っていますが、みんな仲がよいのはよく感じます。だからこそ運動会で1クラスが分かれてしまうことは解決してあげたい気持ちはあります。 あとは、先ほど地域性の話が出ましたが、今の北小は昔の福岡中央小、福岡西小の方が数は多いかも知れません。小学校の中でも3校が統廃合したことによって、保護者の地域差があるかもしれません。例えば福中小はみんなで学校を使ってイベントをしたりしてその流れが残っているようですが、他の地域ではあまりそういったことはない。そうすると、全体的なまとまりを考えると少し溝を感じる部分はあります。ただ、よくまとまっている部分はあって、結局みんな仲良く大中に進学するので、みんなで楽しく学校生活を送ってもらいたいと考えていますし、そういう場所を望んでいます。
議長（委員長）	大間々地区については小学校の小規模化が顕著に見えているところですが、それに続いて中学校の様子も伺いたと思います。
委員4	私は上の子たちが24歳と22歳で、もともと福西小に行っていました。上の子たちのときに統合するための統合委員会に参加させていただいて、スクールバスのことや体育着のことを検討したり、1年間大北小との交流を行ったりしました。上の子たちのときに大中は3年生が108人いましたが、今の中3は47人。約半分になったと聞きました。そういうことを目の当たりにすると、統廃合もありなのかなと思うところもあります。でも難しいですね。自分が統合委員会に入って大北小の統合について関わってきたのですごく難しいことも分かっています。私の中で福西小にいたのがすごく楽しくて、親同士もすごく仲良く。福西小の運動会は、地区の運動会と一緒になんです。だから近所のおじいさんおばあさんと一緒に運動会をしていました。前は一日がかりで運動会をしていたのが、コロナの影響もあると思いますが、人数が少なくて半日で終

	わってしまいます。熱中症対策で時間もすごく限られて、昔は男の子たちは上半身裸で棒倒しをしていたのが、今はそういうのはいけないということで棒引きをするようになりました。そういう状況を見ると、少しさみしくなっていましたと感じていますが、それも今の時代なのかなとも思っています。
副議長（副委員長）	私も大南小から大東中へ進学しました。小学校6年生の3学期くらいになると、学校が分かれてしまうということから、精神的につらい時期があったなと思います。上の娘の時も、やはり中学に進学する際に減入っている様子もありました。分かれてしまうこともそうですが、中学に行ったら行ったで大東小と大南小が一緒になるけれども人数的に釣り合いがとれていないという実情もあります。息子の学年は大南小から進学した生徒が10人で、大東小から進学した生徒が60人。1対6です。この状況の中で、新しい環境で頑張りたいのだけれど、そういった側面によって神経をすり減らしてしまっていて、場合によっては学校に行けなくなってしまうこともあります。大南小独自の環境なのかもしれませんが、今回の検討によってうまく解消できるのであれば、より充実した学校生活につながると思うのですが、今の状況を見ると簡単にはいかないとも思います。子どもたちのために充実した学校生活になるようにしてあげたいと思っていますが、なかなか現状は難しいと感じています。
議長（委員長）	幼稚園、つまり小学校に上がる前のお子さんがいるところはどのように考えているか、あるいは意見を聞いているかお話してください。
委員5	私は県外から大間々に来たので歴史などはよく分かりませんが、私の夫は大南小から大東中へ進学したそうで、それがすごく嫌だったと言っていました。なので、家を建てる際に決め手になったのが進学先でした。夫は地元が好きでできるだけ家の近くにいたいけど、進学の際に分かれるという経験が嫌だったので、少し家から離れて大東小区域に家を建てています。住む場所をどう決めたのか同じ子育て世代のお母さん方に話を聞くと、やはり進学先で選んでいる方が多かったです。 大間々南幼稚園は、大間々の地域の方だけでなく笠懸の地域の方もたくさんいます。私のように外から来た人から見ると、笠懸のように人がたくさんいて刺激がある環境が魅力的に感じるときもあります。大間々地域に住んでいた夫にとっては地元を大事にしたいという気持ちもあって葛藤している様子もあります。計画案には義務教育学校への移行や小学校の統合などの案がありましたが、皆さんの話を聞くと、中学校に上がるときのギャップが一番ネックになっていると思うと、小学校では友だちづくりなど自分の周りのコミュニティをつくって、中学校では少し開けて地元の人と関われるよう配置を検討できるとよいかと思います。
議長（委員長）	終了予定の時間ですが、本日は第1回なので皆さんからお話をいただきたいと思います。区長会からお願いします。
委員6	教育という観点から見て、私たちが区の行政を行っているという考え方とは違って難しい問題があるのだと気付きました。「みどり市」というくくりで適正規模・適正配置の検討委員会が令和5、6年でありましたが、これに関してはそれほど抵抗感はありませんでした。でもなぜ今回、東、大間々、笠懸と分離

	してその中だけで決めるのかと思っていました。ただ、今PTAの皆さんの意見を聞いていますと、確かにそういう部分もあるのかと思いました。私が育った環境は大間々小学校と大間々中学校しかなかったので、クラスが分かれて違う学校に行くようなことは想像もしていませんでした。いざ3町村が合併となったときに、笠懸、大間々、東それぞれの文化があってアイデンティティがあって、難しいと思いました。我々の年代やもう少し下の年代の人たち、大間々小学校、大間々中学校で育った人たちは、やはり笠懸とは違う文化が染みついています。だからこそ、大間々の一部と笠懸の一部で境界線を引かなければ、子どもたちが30年後みどり市の運営に関わるようになったときには、幼なじみになるんです。そのときにはもっと人口が減っているでしょうから、そういう幼なじみたちが協力して郷土や地域を作っていけるという礎になるには、「笠懸は笠懸地域で考えます、大間々は大間々地域で考えます」ではいけないと思います。できるならば30年後、今の子どもたちが育ったときには、大間々笠懸というのは違和感のない地域であってほしいです。当然人数が減ってくれば通学距離も増えるでしょうし、クラスも小さくなるでしょう。ただ、そのときでも「大間々が」「笠懸が」という学校では地域がもたなくなってしまうと思います。今ここで大間々地区検討委員会として、大間々地区の中だけで考えようというのは、今回はいいと思います。ただ、将来的には笠懸、大間々、東と一緒に話し合っていかなないとみどり市のコミュニティが保てなくなるのではないかと心配しています。
議長（委員長）	委員7さんはいかがですか。
委員7	区長さん方のご意見ももっともだと思いますけれども、適正規模・適正配置検討委員会で検討していく中で笠懸、大間々、東それぞれでどうすべきか検討する流れで来たので、大間々地域限定で話をさせていただきます。大間々は人口が減っていることは間違いないです。幼稚園は今園児が120人いますが、笠懸が47人で大間々が49人と差がほとんどありません。市外が20人くらいという状況です。でも笠懸の子も大間々の子も桐生、伊勢崎の子もみんな仲良くやるんです。だから、笠懸も大間々もくっつけば子どもたちは仲良くなると思います。ただ、適正規模・適正配置について大間々限定で考えると、私の意見は42ページの一番上の案で、これがベストではないかと考えています。来年の大間々の3小学校の入学予定者数が、大北小が21人、大南小が20人、大東小が55人くらいで、合わせて95人くらいです。令和5年のときは111人でした。大北小35人、大南小21人、大東小55人。令和6年は大北小29人、大南小9人、大東小42人。来年度入学する子たちは令和元年度の生まれで、最初は91人でしたが4人増えています。令和2年度生まれは一気に減って67人。令和3年度生まれは78人。令和4年度生まれは74人。令和5年度生まれは70人。そして令和6年度生まれで今の1歳児は53人しか生まれていないんです。この子たちが市内の幼稚園や保育園、市外の認定こども園などに行くわけです。そうすると8園に53人が分かれることになります。なので、大間々の幼稚園・保育園に大間々の子が少ないのは現実です。そして先を見ると、令和13年度に今年度の1歳児が小1になります。そうするとこ

	の53人が3つの小学校に分かれることになります。笠懸ももちろん減っていますが、大間々の方が深刻な状況です。基本方針には1学年1学級、15人を欠けるようなら複式学級を視野にとありますが、やはり中学校は1学年3～4学級がベストだと思います。この規模が活性化という面では一番よいと思います。小学校は2～3クラス。そうすると学級対抗にも花があります。ただ、この小規模の現実を考えれば、小学校が2学級、中学校は3学級あたりが普通の考えだと思います。皆さんの意見を聞いていると、中学校の統合は喫緊の問題になるかと思っています。つまり、この53人の学年が10年後には中学1年になって、大変な状況が想像できます。ただ、統廃合について保護者や先生の意見を聞くと、1クラスの人数は20～30人が適正だという意見が多いです。20人クラスで考えると、小学校は6学年で120人。中学校は3学年で60人、30人クラスで考えると90人。そう考えると、100人くらいの規模であれば小規模校のよさを生かした教育が機能すると思います。でも100人を欠ける状況になるならば、それを見通して早急に中学校の統合を決めてしまうのはどうか。大中と大東中が1つになれば、進学時に分かれる心配はなくなります。大間々町の原点である中学校1つ、これができれば中学校の活性化が図れます。小学校は地域性や地域コミュニティが大事。私は小中一貫校はお勧めしなないです。小学5、6年生が活躍してリーダーになる経験ができない。上に7～9年生がいるからリーダーになって頑張るぞという意識がなくなるという話も聞きます。だから、小学校は小学校で必要だし、地域に根付いていた方がよい。地域コミュニティで地域運営協議会があるのだから、地域と一緒にいろいろな行事や伝統にどんどん入り込んでいくのはやはり小学校がよい。一貫校だと中学3年までいるから学校全体で動きづらいけど、小学校ならばフットワークよく1年から6年まで動けます。やがては大北小と大南小が合併しなければならないのは目に見えているけれども、まずは中学校を先に1つにして、小学校3校がみんな集まる形になるとよい。そして、順次段階的に大北小と大南小は合併する。最終的に30年後くらいには義務教育学校1校になる可能性もあるかもしれませんが、現時点で10年以内には中学校の統廃合、あるいは大北小と大南小の統廃合は必要ではないかと考えています。
議長（委員長）	かなり長期的なイメージをお話いただいたと思います。学校の方からも発言をお願いします。
委員 8	小規模校に勤めさせていただいている中で、小規模校のメリットを生かし、デメリットをできるだけ出ないようにする努力はしています。確かに大南小は進学時に2つの中学校に分かれますが、昔は人数が多かったので、分かれた学校で人数比が少ないという思いはそれほどなかったと思います。でも今はどの学年も20人くらいしかいませんので、均等に分かれたとしても10人ずつ。確かにそういった状況もあるのかなと思います。どの案になったとしても大南小はなくなるようになっていきますので、寂しいとは思いますが、でもそんな感情論ばかり言ってられないなと思いつつ、これから本検討委員会に出させていただくにあたって、慎重に議論していけるとよいと思っています。
委員 9	大東中には今年は大南小から新入生が9人入りました。1年生は3クラスに

	なるのですが、9人が3クラスに分かれるのではなく、半分にして2クラスに入れたり1クラスに固めて入れたりしてほしいという意見をいただいたので、昨年度末に小学校とも協議をし、担任の先生からもいろいろと話を聞かせていただき、学校の中でも協議をして、最終的には3人ずつ3クラスに分けてクラス編制をするような方向で小学校にも了解を得て進めていきました。ちなみに来年度は今のところ大南小から6人入学する予定です。学級数は2クラスになる予定なので、また3人ずつ分けて入れるのか、片方のクラスに全員入れるのか検討をしていくことになります。分かれて進学するという状況は、子どもたちにとって一定程度負担を与えている部分はあると思います。ただ、今のところ1年生が3クラスに分かれることによって学校に行きづらくなっているといった話は出ていないので、担任の先生の見立ても小学校との意見交換も有効だったかと思います。 ただやはり、2クラスより3クラスの方が、学級編制上も非常にありがたいと思います。中学3年生は今年度は2クラスです。そうすると、学級編制のときにどのように分けるかというところで、かなり苦労や配慮があります。保護者からもいろいろと要望はありますが、それらを全て勘案したような配置は不可能です。なので、学級数は3～4クラスくらいあったほうがありがたいし運営がしやすいです。学級数が多ければ先生の人数も増えますので、より多くの目で子どもたちを見ることができそうですし、手も入れやすいと思います。 また、部活動では、現在地域移行が進んでいるところですが、大中の生徒が、大中には希望する部活がないので大東中に来て活動している状況もあります。合同部活動や拠点校部活動という制度を使って参加する生徒もいます。仮に1つの中学校に統合されたとすると、先生方の人数が増えて、一定程度部活動が実施できる部分もあるかと思います。小規模校の良さがあるということも十分分かっていますし、義務教育学校の勤務の経験もあるのでその良さも十分感じているところですが、やはり標準的な規模の学校がトータル的に見るとバランスよく学校運営をしやすいと思います。
議長（委員長）	それでは、広い視点から委員10さん、お願いします。
委員 10	全国的な課題からお伝えしておきます。みどり市に限らず全国の市町村が直面しているのが、平成の大合併が残した課題であると感じています。来年でみどり市は20周年になるかと思います。1つの「ワンみどり」としてコミュニティのアイデンティティを醸成していく時期を迎えつつあるのですが、その一方で小学校、中学校をどうしていくのかという課題と絡まり合っているという状況は、各地域で見られます。とても大事な問題だと思いますが、時間のかかる問題ですので、今回だけでなく長期的な課題として取り組んでいく必要があると思います。過去の例を見ても、長い時間をかけて取り組んでいくことで、地域としての一体感が醸成されると思います。 目下の状況をデータ的に見たのですが、大間々と笠懸の一番近いところにある小学校、大東小と笠懸北小の距離が2km。そして、大東小と大南小が1.6km。笠懸地区と大間々地区ではやはり距離的にも少し離れています。なので、目下の課題としては、一番小規模になっている大南小をどうするかが1つの大

	きな課題になるかと思います。大南小は町中にありますので、当面は大間々地区で何とかするという方向で議論していくのかと思います。私も中学校にいたときに思ったのですが、大南小の子は悲劇に直面しますよね。中学校に進学するときに分かれてしまう。なんでこんなことになっているのかと思って年表を調べてみました。大間々の小学校と中学校の歴史です。昔は小学校と中学校は1つずつしかなかったのですが、大間々小学校が北と南に分割されたのが昭和45年。それから9年後の昭和54年に大南小がさらに大規模化してしまったので、大東小ができます。中学校はその後昭和59年に大中和大東中に分かれたので、大東中ができたのが一番最後です。なので、大南小が進学時に分かれるということは後からくっついてきたことになります。全国的に見ても、小学校を分割して別の中学校に進学させるという例はなかなかないので、後からできた新しいルールで大南小は境界ができてしまったという歴史的な経緯があったようです。おそらく当時はどんどん人口が増えていったので、子ども数も増えていったので、巨大化してしまった学校の環境をどう改善していくかで手一杯だったと思います。なので、数十年後にこういう状態になっているなんて考える余裕もなく境界線を引いてしまったのだと思います。なので、今回長期的な議論ができればと考えています。
議長（委員長）	今日は第1回ですから、これからもっとご意見をいただきながら議論を深めていきたいと思います。今日のところは、意見をいただいたところで次回につなげたいと思います。何かこれだけはということがありましたらお願いします。
委員 1	皆さんの話を聞いていると、それぞれそうだろうなと思いますけれど、今のままでいたら笠懸と大間々は分断がどんどん進むと思います。私はビジョンを言っています。「今これをやるのは難しいからやめましょう」と聞こえてしまいます。でも、今やらなければどんどん溝が深まると思います。数年前に笠懸西小ができたときから分断が始まっています。もっと前を言えば、笠懸地区で笠東小と笠北小があんな端のところにできている。当時の大人たちの欲望で作っている。村全体のことや先のことを考えていない。当面の自分の利益だけ。今の大人がビジョンをもってやらなければいつまでたっても昔のまま。溝が深まるばかりです。そこを忘れないでほしいし、そこへたどるまでにいろいろハードルがあるでしょう。ハードルがあって難しいからやめようではなく、ハードルが分かっているならばその解決方法があるはず。それが大人の知恵だし、それをやるのが今生きている我々だと思います。
議長（委員長）	本日の協議につきましては、ここまでとさせていただきます。

9 その他

10 諸連絡

第2回委員会 日時 令和7年11月6日（木）19：00～
会場 大間々庁舎 3階 大会議室

11 閉会